

脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会
京都実行委員会

「高次脳機能障害者が地域社会とつながるための理解と支援」を考える講習会を開催

当事者として 鈴木大介氏 が障害を中から語るゲスト講演

12月3日（日）Zoom ウェビナーで無料LIVE配信、どなたでも参加可能

高次脳機能障害の当事者団体や医療機関などに在籍する支援者らを中心に組織する「脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会 京都実行委員会（事務局 京都大原記念病院グループ、委員長 武澤信夫）」は、2023年12月3日（日）、「高次脳機能障害者が地域社会とつながるための理解と支援」をテーマとする講習会を以下の通り、Zoom ウェビナーで開催します。

■ 名称	第27回 脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会
■ 主催	脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会 京都実行委員会 一般社団法人日本損害保険協会助成
■ 日時	2023年12月3日（日）13:30~16:00 【開場】13:20
■ 場所	Zoom ウェビナーLIVE配信（要事前申し込み）
■ 定員	200名（参加費無料）・どなたでも参加可能
■ プログラム	【第一部】講演 「当事者が主体的に社会で生きていくために」 鈴木大介氏（文筆業） ルポライターとして多忙な日々を41歳で脳梗塞に襲われ、高次脳機能障害の当事者に。想像よりはるかに不自由でつらい障害は、一見して分かりづらい。当事者になり初めて、辛さを他者に伝えられず、他者によって辛さが「ないこと」にされる残酷さを知る。現在は当事者であり、自分の辛さを言葉にできない当事者の代弁者として、代表作の『脳コワさん支援ガイド』（医学書院・日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞作）など多数の書籍執筆や講演活動を行っている。 座長 原 早恵子氏（京都市高次脳機能障害者支援センター コーディネーター）



【第二部】シンポジウム

1. 報告

生活訓練事業所 ひまわり

株式会社 u&n 障害者就職支援センター（就労移行支援事業所）

一般社団法人 暮らしランプ こきゅう+（就労継続支援 B 型事業所）

中丹高次脳機能障害者と家族の会 さくら

2. ディスカッション

座長 | 冨田 素子 先生（京都博愛会病院リハビリテーション科 部長 医師）

平井 真理子 先生（京都大学医学部附属病院形成外科 言語聴覚士）

■ 後援	一般社団法人 京都府医師会・公益社団法人 京都府看護協会・一般社団法人 京都府理学療法士会・一般社団法人 京都府作業療法士会・一般社団法人 京都府言語聴覚士会・京都精神保健福祉会・一般社団法人 京都府臨床心理士会・一般社団法人 京都社会福祉士会・公益社団法人 京都府介護支援専門員会・社会福祉法人 京都府社会福祉協議会・社会福祉法人 京都市社会福祉協議会・京都府教育委員会・京都弁護士会・一般社団法人 京都医療ソーシャルワーカー協会・京都地域リハビリテーション研究会・京都新聞
■ 協力	京都府・京都市

■ 講習会開催の背景

1. 高次脳機能障害とは

脳には、生命維持に関わる基本的な機能と、**社会で生きていくために重要な高次脳機能**があります。頭のけがや脳の病気によって、高次脳機能に関わる部分が損傷すると、「新しいことを覚えられない」（記憶障害）「ぼんやりして、ミスが多い」（注意障害）「人に指示してもらわないと何もできない」（遂行機能障害）「思い通りにならないと、大声を出す」（社会的行動障害）などの症状が表れることがあります。「高次脳機能障害」は、これらの症状により日常生活または社会生活に制約がある状態を指します。

2. 高次脳機能障害者の実際とは

高次脳機能障害は、原因や損傷状況によって一人ひとりの症状が異なるだけでなく、麻痺や歩行障害のように外見上は分からず、**「何か変わった」と思いながら、何年も過ごしてから診断される方も少なくありません。**当事者自身が自分の症状を認識できないこともあるなど、一般には理解されにくく、当事者やご家族の負担は大きくなっています。当事者が復職や就労を継続し、**地域社会で暮らしていくには障害による影響を理解したうえでの環境調整が必要です。**本講習会を通じて、当事者が地域社会とつながるための理解と支援が広がる機会となることを目指します。

3. 高次脳機能障害に関わる環境の変化

高次脳機能障害は、国の「高次脳機能障害支援モデル事業」において、2004年に診断基準が確立されました。2006年に「障害者自立支援法」ができること、都道府県の特に専門性の高い相談支援に係る地域生活支援事業として、「高次脳機能障害支援普及事業」が明記。2008年には内閣府障害者施策推進本部重点施策実施5か年計画に、「高次脳機能障害支援拠点機関の設置」「地域支援ネットワーク構築および支援技術の確立と普及」が明記されたことが追い風になり、全国47都道府県に支援拠点機関が設置されました（2010年）。支援拠点機関数は13箇所（2006年4月時点）から、120箇所（2023年4月時点）へ整備が進んでいます。2022年度現在、一般的な相談に加え、普及啓発、困難事例への介入などの相談・支援約9万件を、全国の支援コーディネーター464名が対応しています。

参考：国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センターウェブサイト

(http://www.rehab.go.jp/brain_fukyu/)

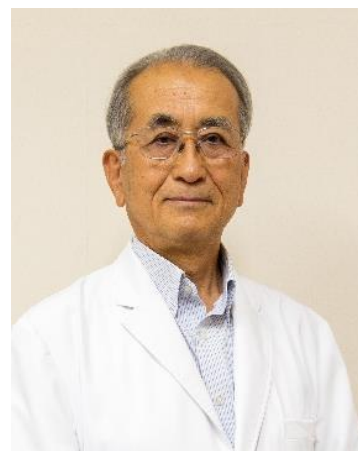
4. 委員会について

脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会 京都実行委員会 委員長

武澤 信夫

御所南リハビリテーションクリニック 医師／元京都府リハビリテーション支援センター長

2008（平成20）年に本委員会が設置されて以来、一般社団法人日本損害保険協会が自動車事故被害者対策の観点から実施する「自動車事故被害者およびその家族を対象とするリハビリテーション講習会に対する助成事業」として毎年、講習会を開催して参りました。本年はオブザーバーを含む、27名の実行委員と共に準備を進めております。我々、医療者がリハビリテーション医療の質を高めると同時に、広く地域社会で理解と支援の輪を広げていくことが重要です。そうした思いも込めて、本講習会のチラシは高次脳機能障害当事者の方にデザインを担当いただきました。当事者や支援者だけでなく、一般府民の皆様もご参加いただければ幸いです。



5. 京都大原記念病院グループ（事務局）について

1981年、京都大原に大原記念病院（当時）を開院。以来、リハビリ医療を中心に医療・介護の総合ネットワークを展開。2000年には京都府の民間医療機関で初めて回復期リハビリ病棟を導入。2013年、御所南リハビリテーションクリニック、2018年、京都近衛リハビリテーション病院を加え、リハビリを中心に、介護施設、高齢者住宅、在宅医療・介護サービスを展開している。



京都大原記念病院グループ
KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK

■ お申し込み・お問い合わせ

1. 参加お申し込み

以下のフォーム、または右 QR コードよりお申し込みください

https://zoom.us/webinar/register/WN_Ao2Elci3RhGeQTWuVYiz9w



2. 講座内容等に関する問い合わせ先

第 27 回 脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会 事務局（京都大原記念病院内）

kyoto-koujinou@kyotoohara-gr.jp

3. 取材に関する問い合わせ先

第 27 回 脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会 事務局（京都大原記念病院内）

担 当 | 高祖悠（こうそはるき）

連絡先 | Tel. 075-744-3160 Mobile. 090-3712-1732 Mail. kousoharuki@kyotoohara-gr.jp

※ ご取材いただける場合、事前に上記担当までご一報をお願いいたします。

以上